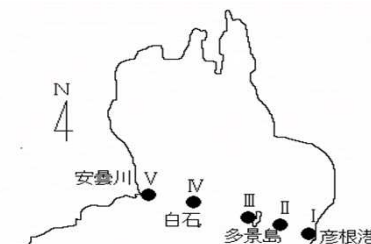


# 琵琶湖定点定期観測結果速報(令和5年9月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご留意下さい。

調査年月日 令和5年9月11日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点  
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町  
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

## 調査結果

平均値 … 5地点の平均値

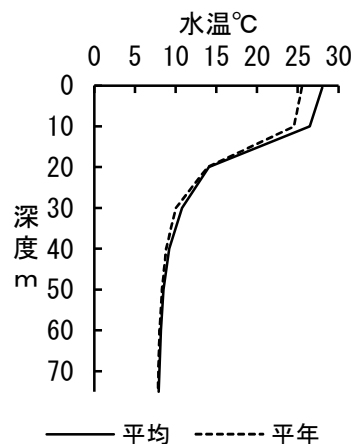
平年値 … 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1991年～2020年(平成3年～令和2年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2013年～2022年(平成25年～令和4年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 9月平均値 8.2m 平年値 5.7m

## 2. 湖水温 (°C)

深度 (m)	9月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	28.0	25.5	+2.5
10	26.5	24.5	+2.0
20	14.1	13.9	+0.2
30	10.8	10.0	+0.8
40	9.2	8.8	+0.4
50	8.5	8.3	+0.2
60	8.2	8.0	+0.2
75	7.9	7.8	+0.1



## 3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
8月下旬	29.1	27.5	+1.6
9月上旬	28.5	26.4	+2.1
9月中旬	28.4	25.2	+3.2

#### 4. プランクトン沈殿量 (ml/m<sup>3</sup>)

水層 (m)	9月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	9.9	11.3	-1.4
10~20	7.6	3.6	+4.0
20~40	1.8	1.0	+0.8
40~75	0.6	0.4	+0.2

(プランクトンネットNXX14使用)

#### 5. 表層のプランクトン優占種

○プランクトンネットNXX14による採集(植物:未固定 動物:5%中性ホルマリン固定)

植物プランクトンの量は全体に少なかったが、細胞数では全ての地点で *Aulacoseira granulata* (アウラコセイラ:珪藻) が最も多く認められた。

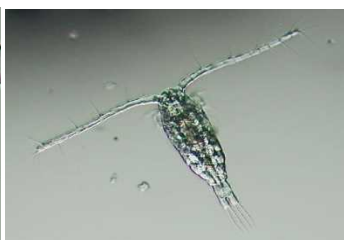
動物プランクトンについては全ての地点で *Eodiaptomus japonicus* (ヤマトヒゲナガケンミジンコ:カイアシ類) のものと思われるノープリウス期とコペポディド期の幼生が個体数で多く認められた。



*Aulacoseira granulata*



ノープリウス期幼生



コペポディド期幼生

#### 6. DO (溶存酸素濃度 : mg/L) 多項目水質計による測定値。ただし平年値(参考値)はウインクラー法による測定値。

深度 (m)	9月平均値		平年値(参考値)		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	7.7	98.6	8.3	103.5	-0.6	(-4.9)
10	7.8	97.1	8.1	99.3	-0.3	(-2.2)
20	7.5	73.0	7.1	71.4	0.4	(+1.6)
30	8.4	75.5	8.3	75.9	0.1	(-0.4)
75	4.0	33.8	4.8	42.0	-0.8	(-8.2)